



TITLE:

まえがき

AUTHOR(S):

高橋, 秀典

CITATION:

高橋, 秀典. まえがき. 技術室報告 2012, 13: i-i

ISSUE DATE:

2012-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/233457>

RIGHT:

まえがき

技術室長 高橋 秀典

例年より発行が遅れましたが、技術室報告第 13 号をまとめることができました。

2011 年 3 月に発行した技術室報告第 12 号は、従来の紙ベースでの製本をやめ、CD-ROM で配布する形態を初めて採用しました。背景には、技術室報告を作成するための経費の削減と、技術室報告を収納するためのスペースの削減が挙げられます。今回の技術室報告第 13 号ではさらに一步進めて、技術室ホームページ上にコンテンツをアップロードする形式に変えました。技術室報告第 12 号を配布した際に実施したアンケート調査結果を参考に、技術室で検討したうえで決定した方針です。

技術室は、まさに世代交代の渦中にあります。2011 年度は 4 月に新人の濱田勇輝技術職員(上宝観測所)を迎えた一方、2011 年度末には藤田安良技術職員(屯鶴峯観測所)と細善信技術職員(宇治地区)、和田博夫技術職員(上宝観測所)の 3 人の再雇用職員が任期満了となりました。さらに 2012 年度末には、一挙に 7 人の再雇用職員が任期満了となります。

再雇用職員の方々が持つ技術や技能を、若い世代の技術職員が 100% 完全に継承できているとは言い難い面があります。ただし、日々の技術支援に必要な技術や技能は、常に変化し続けています。若い世代の技術職員は従来とは違った形の技術支援で活躍し始めています。日進月歩で変化し、多様化する技術支援に対応するために、技術職員一同が日々、研さんに励んでいる成果だと思います。その成果の一端を、今回の技術室報告から読み取っていただけると幸いです。

所内の各部門、各センターからの技術支援依頼に対して、少しでも多く対応できるように、技術支援のより一層の効率化や、さらなる技術習得に努めて参りたいと存じます。今後とも教員の方々、事務部の方々にもご理解と一層のご支援をいただけると期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

末筆になりましたが、技術室報告第 13 号の執筆にご協力いただいた皆さんの労に深く感謝いたします。